

経営比較分析表（令和6年度決算）

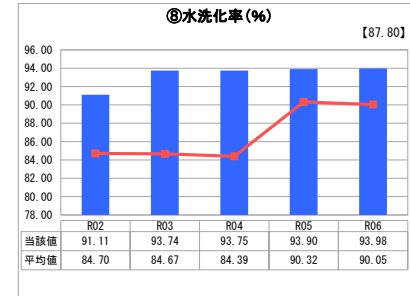
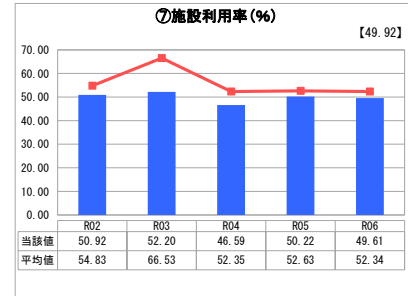
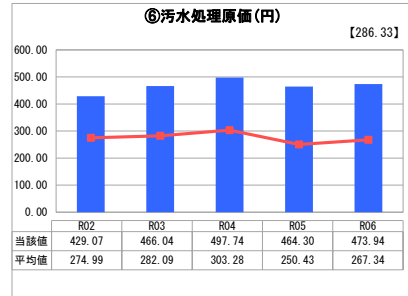
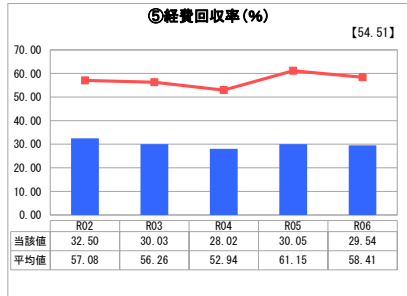
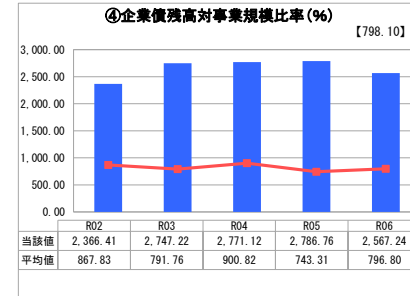
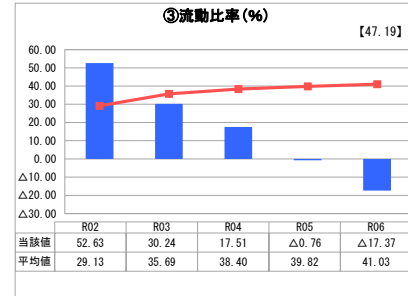
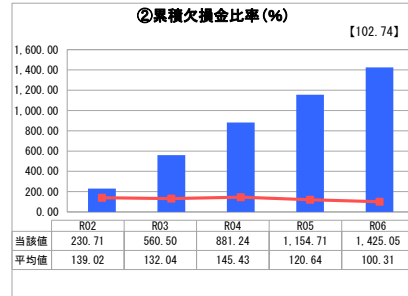
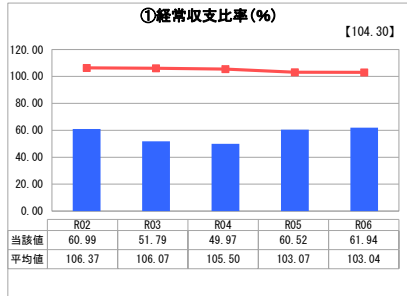
兵庫県 赤穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	55.50	4.05	79.47	2,453

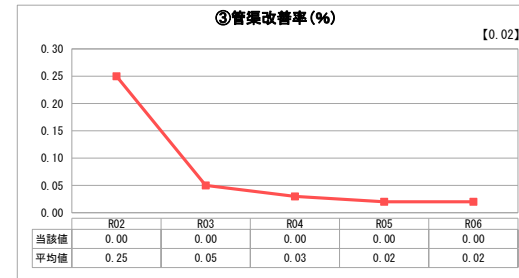
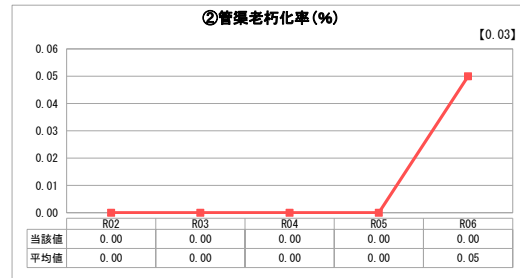
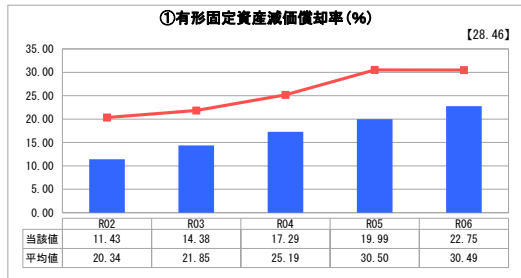
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,179	126.85	348.28
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,778	0.67	2,653.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

農業集落排水事業の①経常収支比率や⑤経費回収率は100%を大きく割り込んでおり、類似団体の平均値からの乖離も依然として大きい。さらに、恒常的な赤字状態であり、②累積欠損金比率も年々拡大しているなど、健全とは言えない状況にある。

令和7年9月より使用料水準の改定を行い、収支の改善に努めていくこととしているが、今後も人口減少に伴う有収水量の減少や、物価高騰、施設等の経年劣化による維持管理費の増加傾向が見込まれるため、引き続き経営の合理化・効率化を図っていく。

2. 老朽化の状況について

本市の農業集落排水事業は、令和2年度に8処理区から6処理区へ再編し、令和3年4月より供用開始している。6処理区で最も早く整備した処理区は平成3年度の供用開始であり、施設の経年劣化が進行している状況である。

経年劣化の進行は、公共下水道事業及び特定環境保全公共下水道事業も同様であるため、緊急度の高い施設から優先的に改築更新を行うこととしている。

全体総括

有収水量は、公共下水道事業及び特定環境保全公共下水道事業と同様に減少傾向が続くものと予想される一方で、経年劣化が進む下水道施設の改築更新にかかる費用の増加は不可避である。

令和7年9月以降に使用料改定を行い、経営の安定化を図るが、収支の状況を的確に把握し、引き続き適切な料金水準や投資計画について検討を続けたい。

なお、当該事業は平成12年度に完了しているため、改築更新に係る新規債発行はあるものの、企業債残高は漸減していく見込みである。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。